宮城民医連
東日本大震災

災害復興ニュース

ニュース =第106号=
発行日 2012年4月23日
発行 宮城民医連

自然エネルギーの導入と働く場の確保を！

4月21日(土) 署名行動
女川原発は再稼働中止を

脱原発！

佐々木知佳さん（坂総合病院）

原発からかけがえのない故郷を守りたい！

4 月 21 日、女川原発の再稼働ストップを求める署名行動が、石巻バイパス仮設住宅で行われました。この仮設住宅は石巻にありますが、女川の町民約 200 世帯が入居しています。

この日は東日本大震災復旧･復興支援みやぎ県民センターに加盟する団体から 61 名が参加しました。宮城民医連からは佐々木知佳（坂総合病院）、丸勢共子（坂総合クリニック）、大竹哲・高橋敦子・神馬悟（県連事務局）の 5 人が参加しました。

訪問した仮設住宅 9 号・10 号棟にお住まいの方からは、＊仮設から病院に通うのにタクシー代片道２千円かかる。＊駐車場が少ないうえ、場所も決まっていないので不便。＊風防室やスロープがない。＊物置を作ってほしい。＊具合の悪い人が出て救急車が来た時、玄関が狭くストレッチャーが入れずシーツで運んでいた。＊土地の買い取り価格やこれからの方針を決めてもらわないと、生活再建の目処がたたない。＊女川という町が原発に依存している部分があるので、脱原発と言っても働く場所は必要だから、原発以外の自然エネルギー利用で、そちらにお金をつぎ込んで働く場所を確保する必要がある。など多くの意見が寄せられました。

署名行動に参加した佐々木知佳さん（坂総合病院・放射線技師）は、「被曝相談会や線量の測定を行っているが、子どもたちの未来を考えると原発はなくさなければいけない。しかし、署名でお宅を廻ってみると、女川原発で働いている人もいて、ただ原発を廃止するだけでなく、その人たちの働く場所の確保も大事だと思います。」と話してくれました。

同県民センターでは、女川原発の再稼働を許さないため住民の過半数にあたる 3,000 筆の署名目標を立てています。これまで 1,000 筆が集まり、この日 322 筆が集まりました。脱原発は宮城県民にとって、エネルギー問題と県民の命と安全を考えるうえでも大きな問題です。

津波があと少し高ければ大惨事になっていた東北電力女川原発

3.11 東日本大震災の時、東北電力女川原発は、津波による深刻な被害をぎりぎりで回避した状況であったことが報告されている。

原発が設置された約 15 メートルの高台が地震で１メートル沈下し、高さ約 13 メートルの津波が押し寄せたが、浸水は一部にとどまり、外部電源が１系統使えたため深刻な事態は免れた。

現在、防波堤は新たに 3.5 メートルかさ上げされているが、原発が安全なものでなく、福島の原発事故からもわかる様に、一度大きな事故を起こしたら取り返しのつかない大惨事になることがわかったいま、私たちは原発の再稼働を望まない。(J)

女川町の中心部を望む（2011年4月27日午前8時50分）

震災の記録

牡鹿郡女川町

震災の津波は女川町の中心部を破壊し、瓦礫は町の高台まで押し寄せていた。一年後の町は、瓦礫がすっかり撤去されたが、そこに建物や生活の臭いはない。被災地のどこでも同じような風景を見かける。2 枚の写真は同じ場所から町の中心部を撮影したもの。(J)